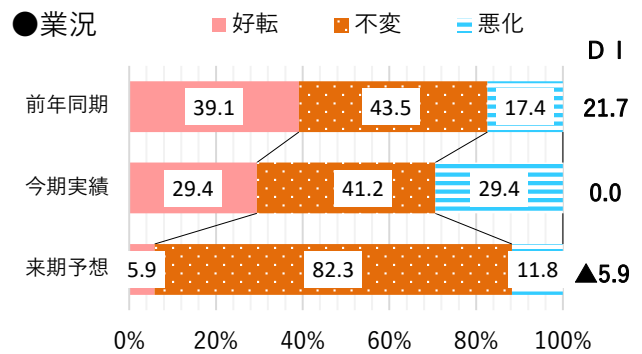


小 売 業

業況、売上、採算

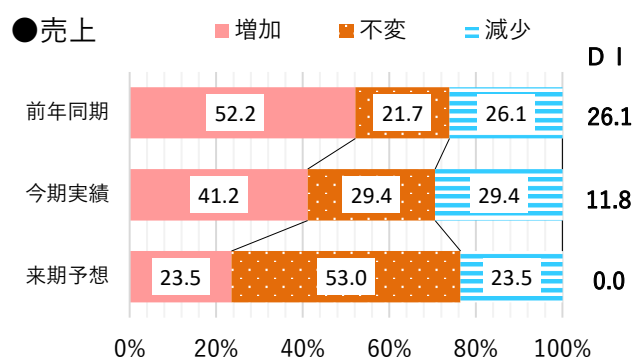
今期(2024.7~9)の業況判断DIは0.0で、前年同期(2023.7~9)と比べ21.7ポイント低下しました。

来期(2024.10~12)は、業況がマイナスに転じると予想しています。



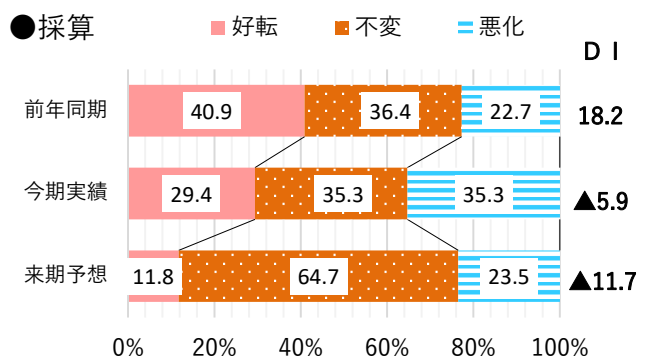
今期の売上高DIは11.8で、前年同期と比べ14.3ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

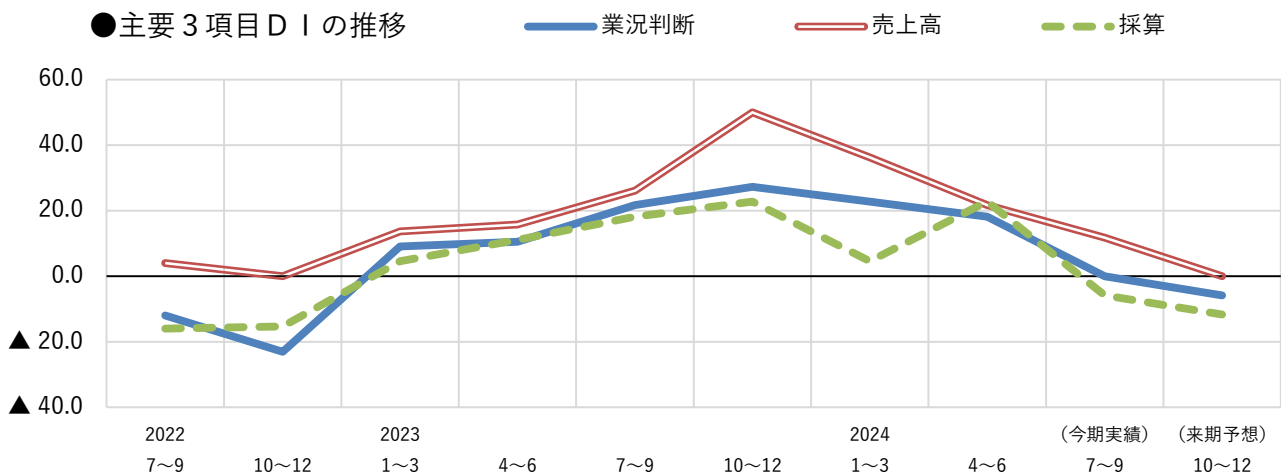


今期の採算DIは▲5.9で、前年同期と比べ24.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



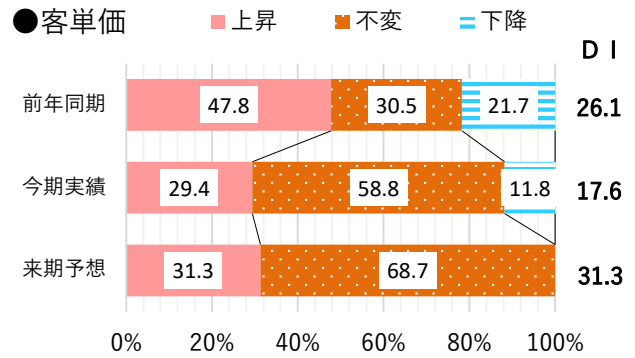
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

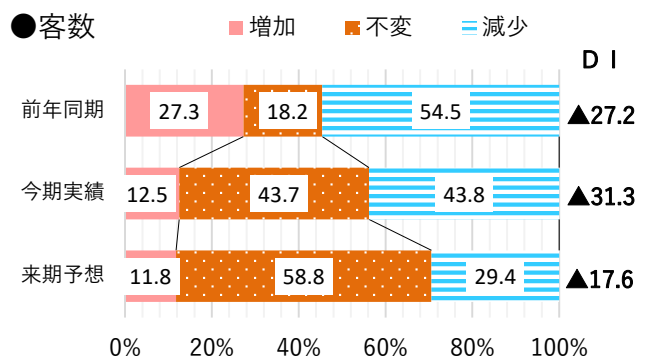
今期の客単価DIは17.6で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の客数DIは▲31.3で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

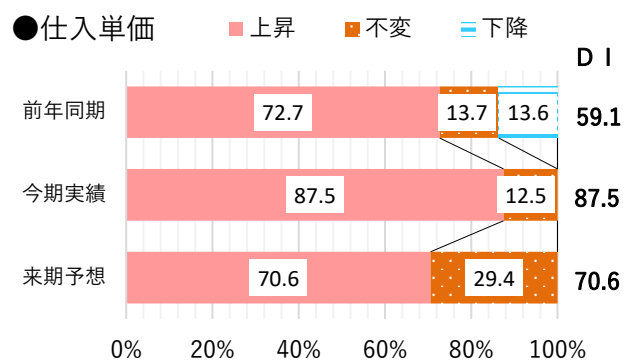
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

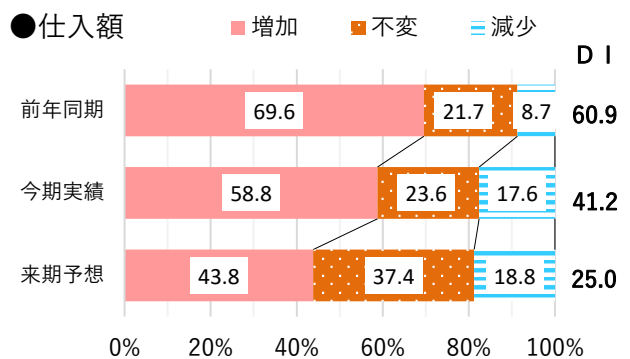
今期の仕入単価DIは87.5で、前年同期と比べ28.4ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



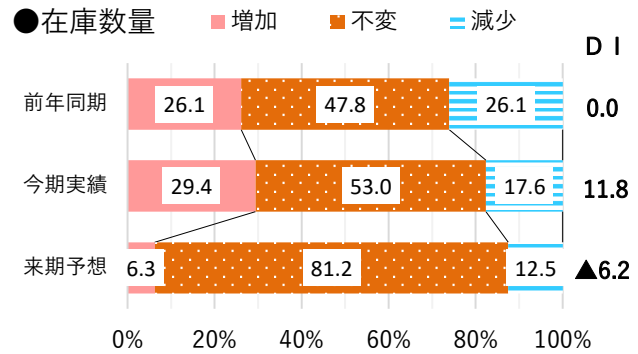
今期の仕入額DIは41.2で、前年同期と比べ19.7ポイント低下しました。

来期は、仕入額の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは11.8で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

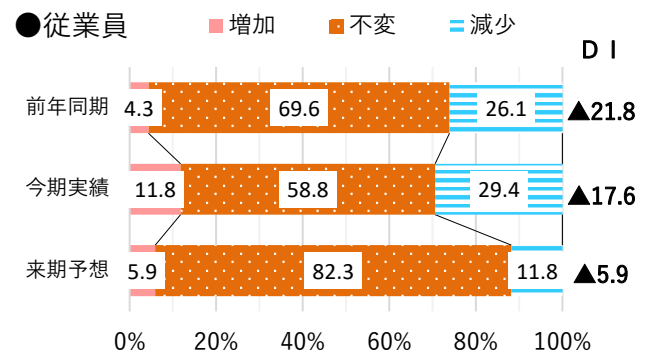
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



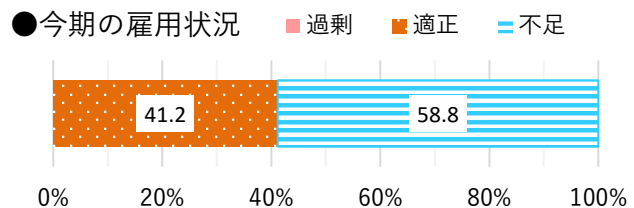
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.6で、前年同期と比べ4.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は41.2%、不足していると回答した企業の割合は58.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、29.4%を占めており、58.8%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

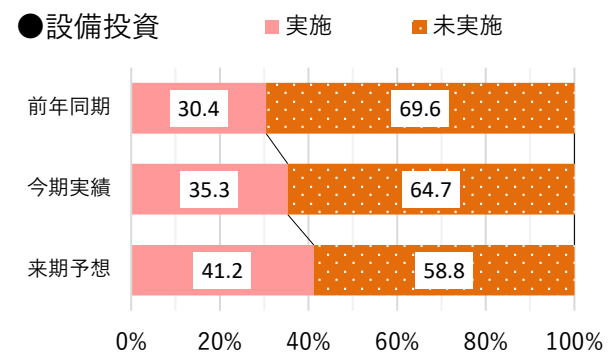
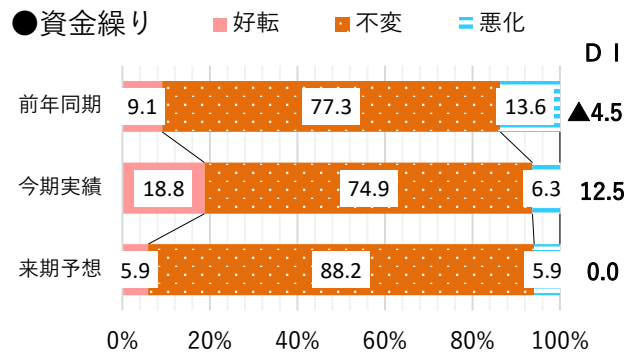
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは12.5で、前年同期と比べ17.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

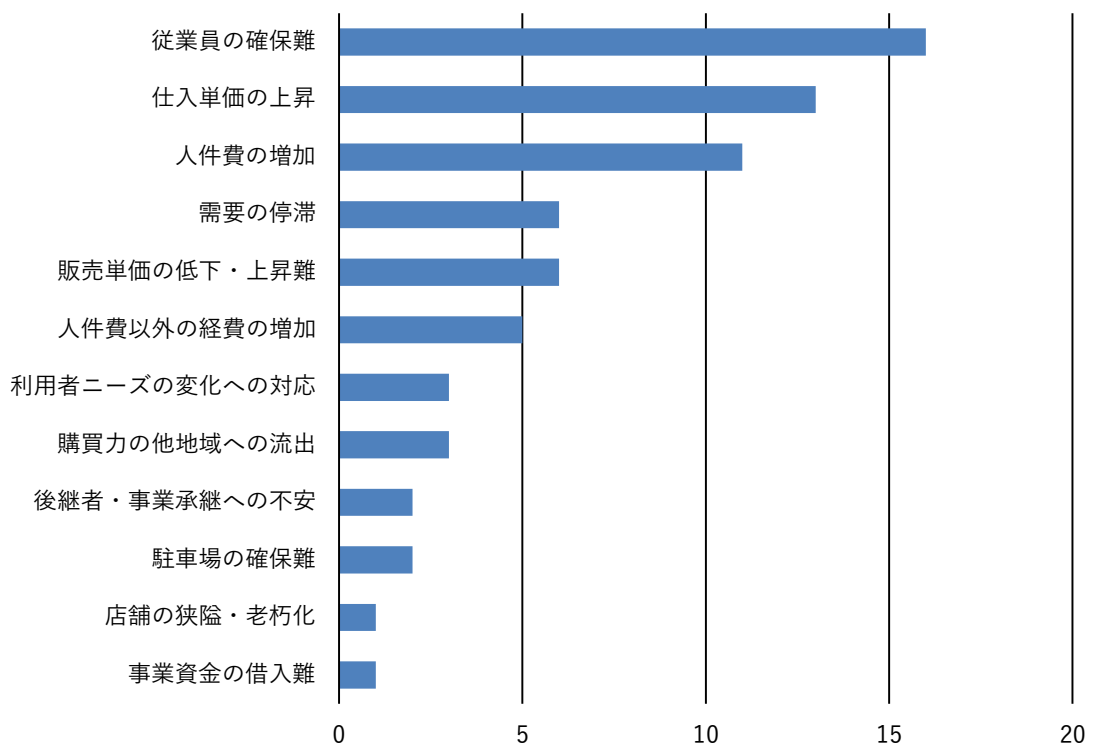
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ4.9%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、「販売設備」、「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「土地」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は41.2%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 客単価は下降、客数は減少傾向にある。米の在庫が減少している状況から、客単価、客数にも影響が出ている。10月以降は米が安定供給されるのではないかと。(大型店)
- 観光客は昨年より増えて恩恵を受けているが、昨年よりも気温が上がり切らなかったため季節商品全般の動きが鈍かった。(大型店)
- 売上、採算が順調に推移してきたが、仕入単価が大幅に上昇したため、先行きは不透明だ。(食料品)
- 人々の動きがコロナ前に戻ってきているようで、来店数が昨年の同時期より増えてきている。観光客も増えてきているが、原材料の値上げが止まらず、思うような利益は出ていない。(菓子製造小売)
- 8月の売上、利用客数がともに減少した。原因は分からない。(コンビニ)
- 車両のサブスクが定着し始めており、客単価が上昇した。(自動車)
- 仕入原価が高騰している。(自動車)
- 利用客数の減少もあり、売上が減少した。Webでの受注が増え、リアル店舗の利用が減少している。(家電量販店)
- 昨年同期比で売上、客数がともに増加した。学生のアルバイトが増加し、人材を確保できた。賃金は北海道の最低賃金に準拠している。(ホームセンター)

[来期の業況について]

- 電気料金の単価調整の終了や人件費の上昇から、経費管理が非常に難しくなる。物価上昇により、節約志向がより一層強まる。(大型店)
- 米の枯渇や値上がりの影響で価格感度が高まり、消費者の生活防衛意識が高まると予想する。(大型店)
- 商品仕入単価の大幅な値上がりにより、売上高、採算ともに不透明だ。(食料品)
- 最低賃金引き上げのため人件費の上昇が避けられない。いかに利益を出すか悩ましい。(菓子製造小売)
- 業況の回復に期待する。(コンビニ)
- 今後は客数の増加に注力するが、即効性は望めないため、好転は見込めない。(自動車)
- 為替相場の変化に左右される。(自動車)
- 今期同様に売上、利用客数の減少を予想するが、リアル店舗を利用するメリットを施策に取り入れて、状況の改善を図る。(家電量販店)
- 今期同様、売上、客数の増加と従業員の増加を見込む。(ホームセンター)